

青木村消防団広報

KODAMA

発行所／青木村消防団 〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢111 TEL.0268-49-0111

No. **3**

発行：平成19年2月1日



団員の皆様には、諸先輩方が築き上げてきた伝統を守りつつ、自ら消防活動がしやすい環境を提案・実践し、地域住民の皆様から更なる信頼を得ていきたいと思っております。

分団長としての一年

第三分団長 北沢友典



今年度第三分団としては、初めての試みとしてポンプ操作大会のチーム編成を混合二チームとして大会に臨むこととなりました。元々第三ブロックの仲間ではありましたが練習方法や操作方法の違う部から選手を選抜しての出場に不安もありましたが、選手は一つの目標に向かい心を一つにし、合同練習により切磋琢磨し、技術・工夫の共有化が図れ両チームとも素晴らしいチームに仕上がりました。第三分団としては、上小

大会に出場することもでき、これからの団員不足の分団運営に一石を投ずることができたと思っております。これも、まわりからのサポート特に別のサポートとの協力があつたからこそその成果だと思えます。来年度に向けよい方向がついたと思っております。

分団長としての一年

第四分団長 窪田健二



我々第四分団は、夫神・細谷・殿戸・青木区で構成され、団員数五十九名で活動しております。今年度は現在までに、当分団管内からは、大きな災害・火災とも発生しておりません。これは各区民の皆様、そして団員の防火意識の高さのおかげと深く感謝しております。また、昨年は、ほとんど

け、資格を有し、その他消防訓練も行い有事に備え消防活動に取り組んでいます。これからも「無火災・無災害の青木村」を目指し、団員一丸となり努力してまいりますと思っております。

消防団に入団して第三分団下奈良本部

沓掛和也



今年度入団にしてもう一年が経とうとしております。一年を振り返ってみて私はラップ班を頼まれたのですが、小学生の頃に金管バンドを少しやっていた程度だったので吹けるかどうか心配でした。初めてラップの練習に出た時は、やっぱり全然音がでなくてどうやら上手く吹けるようになるかを先輩方に聞きながら試行錯誤して初めて音が出た時はとても嬉しかったというのが

一番印象に残っています。これからもっと腕を磨いて大会で上位を目指せるように頑張つて練習をしていきたいと思っております。

自分の地域は、自分で守る 消防団員募集

誇りになること、はじめよう

消防団は、それぞれ仕事を持ちながら、「自分の地域は自分たちで守る」という精神に基づき、地域の安全・安心を守るために活躍している人たちが集まる消防機関の一つです。消防団員は、火災発生時の消火活動、地震や風水害などの災害発生時の救助・救出活動、警戒巡視、災害防衛活動などに従事し、地域住民の生命や財産を守るために活躍しています。また、災害発生時だけでなく、平常時においても訓練、防火指導、広報活動など防災力の向上や地域に密着したコミュニティ活動などに「地域の防災リーダー」として重要な役割を担っています。

青木村消防団では男女を問わず消防団員を募集しています!!

年齢18歳以上38歳未満で、村内に居住又は勤務している方。(女性消防団員については、村内に居住している方を対象といたします。また、女性消防団員には、火災予防や地域防災などの広報・啓発活動を主に、消防団が行う各種行事への参加、災害時の後方支援などを行っていただく予定です)

申し込み、お問い合わせ先

青木村役場

総務課総務企画係

電話／490111(代)

随時募集しております。



平成十九年 青木村

消防出初式 式辞

団長 増田宗由



輝かしい平成十九年の新春を迎え、永い歴史と伝統を誇る青木村消防出初式が、来賓各位のご臨席を賜り、ここに盛大に挙行できますことは、団員と共に喜びとするところであります。

平成十八年を振り返ってみますと、景気拡大局面が五十八ヶ月連続となり、「いざなぎ景気」を超え戦後最長を更新しましたが、労働者や中小企業、地方には恩恵の少ない「格差景気」が指摘され、格差社会がクローズアップされました。また五年半の小泉政権を受け、安倍政権が誕生、県内では村井知事が就任するなど、変化の年でもありました。

海外では、北朝鮮による核実験の実施、内戦状態に陥ったイラク情勢を背景に

した、ブッシュ政権の中間選挙での敗北に注目が集まり、さらにイランの核開発、イスラエルのレバノン侵攻、原油の高騰など、緊迫する中東情勢が、今後懸念されるどころです。

その様な中であって、トリン冬季五輪では、女子フィギュアスケートで荒川静香選手が金メダルを獲得、九月には皇室としては四十二年ぶりとなる男子が誕生され「悠仁」さまと命名されるなど、明るい話題もあった一年でありました。

当村におきましては、平成十八年七月豪雨によりがけ崩れ等の災害の発生。また九月には、ゴミ収集車から出火した車両火災が発生しましたが、幸いにも人的被害は発生せず、被害が最小限に食い止められました。これは、川西消防署職員の皆様のご協力と日頃から村民の皆様への防災意識の高さと団員諸君の予防活動、広報活動の賜物と感謝いたします。

ご承知のように我々消防団は「自分たちの村は自分で守る」という郷土愛護の精神から地域住民の

とも身近な防災機関として、先人の英知とためまぬ努力の積み重ねにより、今日まで着実に成長・発展を遂げて参りました。申し述べるとまでもなく我々の使命は、その崇高な精神のもとにあらゆる災害を防止し、尊い人命や貴重な財産を守ることはもとより、平素の予防活動、警戒活動など広範囲にわたり地域住民の安全を守ることにあります。

団員の諸君におかれましては、消防団員としての使命を再認識すると共に、合併せず自立の道を歩む青木村の村民であるという自覚と、諸先輩方が築いてこられた、郷土愛護の精神を常に持ち、火災や、台風などに代表される自然災害に備えるべく、日頃から教養訓練に励み、なお一層の精進を強く希望するところであります。

また、本村の機械器具ならびに消防施設につきましては、年々更新と整備が着実に進められており、本年度も小型ポンプならびに、積載車を更新していただくなど格段のご配慮をいただきましました。このことは

団員の士気高揚と同時に、消火活動の一層の向上が期待されるものであり、村当局の防災と、消防活動に対する深いご理解の賜物と、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

そして、今回退団されます塩沢前団長をはじめとする退団者各位におかれましては在団中、永年にわたり青木村消防団を支えていただいたことに対しまして、心より感謝申し上げます。

今後我々消防団員は、予防消防に徹すると共に、益々複雑多様化するいかなる災害に対しても、諸先輩方が築き上げてこられた、輝かしい業績と消防精神を継承し、さらなる消防技術の向上を図り、村民の期待にこたえるべく努力していく所存であります。

終わりに関係機関各位の青木村消防団に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げますと共に、本日もご臨席を賜りました来賓各位ならびに、団員諸君の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

消防団の最大の行事である消防出初式が去る一月十四日に挙行され各団員様々な想いを胸に消防行進をされた事と思えます。

四月に新体制になり消防団活動が始り七月に豪雨災害に襲われ各地で住民の尊い命、財産が失われ怖さを改めて感じました。災害に對しての意識を強め、防災活動・予防活動に取組んでいかなければなりません。

また、消防操法・ラッパ吹奏上小地区大会では地元青木村で開催されラッパ吹奏では、個人・団体と上位入賞を果たし大変高い評価を受けました。

今後消防技術の向上を目指し訓練をしていきたいと思えます。

小さな村の消防団

副団長 小泉澄生



日頃、村民の皆さまに御座りましては、消防団活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。私たち消防団員は、村民の皆さまが安心して暮らせるよう、一丸となって予防消防に努めております。

今年度は、機構改革により分団統合して、早くも四年目に入ります。近年は団員不足という問題に直面し、様々な角度から検討・議論を重ね、団員の確保に努めております。もっと広い視野で、若者が今暮らしているこの村に、消防団活動をとおし関わっていただけるようこれからも声を続けてまいります。また、団員が活動するにあたって、職場や家族の理解と協力は不可欠であります。隔年ではありますが行ってまいります「消防フェスタ」などを

とおして、活動の理解をより深めていただけますよう努めてまいりますので、機会がありましたらぜひご参加くださいますようよろしくお願いたします。

この一年を振り返って

本部長 横沢幸哉



平成十八年度の消防団活動も残りわずかとなり一年の大役の重い荷がやっと落ち着こうとしています。

今年度は小規模な豪雨災害がありましたが大災害とならず、また村内の火災もなく落ち着いた年でした。

夏の上小ポンプ操法、ラッパ吹奏大会が本村で開催され消防技術の競いに消防団活動にも関心がもたれました。

今後村の消防団員として指揮高揚を高め、団員数の減少していく中ですが一層のご尽力をお願いします。

将来を見据えた消防団活動を

第一分団長 上原忠司



日頃より、村民の皆様には消防団活動に対しご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年度、第二分団では今後の分団運営について意見交換の場を持ちました。

やはり、団員確保の問題は大変深刻であり、このまま減少が続くと消防団活動に支障をきたすことが懸念されると認識させられました。

消防団員としては、広報活動を通じて団員募集を継続し、消防団の活動内容と重要性を地域住民の皆様へアピールして参ります。

また、分団役員構成・会計のスマート化等分団として確立し活動していただけるよう団員各自が真剣に考えた様々な意見が出され、今後の消防団活動に大変期待がもてました。

分団長としての一年

第一分団長 岩下定次



昨年の四月、分団長に任命されてから早十一月、任期も残すところ一ヶ月余りとなりました。

はじめは、仕事柄村内に不在のことが多く、分団を任せられることに不安を感じてはいたが、副分団長並びに役員のご協力により活動ができたことに感謝し、残りの任期も気持ちを引き締め、火災予防活動に努め、消防団に入つて良かったと思えるようにしたいです。

今後少子化の影響から団員数の減少が進み一段と消防団活動が厳しい状態になっていきます。まだ消防団に入っていない村内の若者に少しでも理解して頂けるよう残りの任期一杯頑張りたいと思えます。

この一年を振り返って

ラッパ長 橋詰法彦



本部役員となり感じたことはやはり、団員数の減少と団員確保の難しさです。消防団は青木村の安全を守る為にとても重要な組織です。消防団員の中で団員数確保の為様々な意見を交わし検討しておりますが、村民の皆様のご理解、ご協力が無ければ我々の力だけでは大変難しい時期に参ります。

我々は、今後一層、青木村の安全の為、努力して参りますので、村民の皆様にも是非、消防団を盛り上げて頂きたいと思えます。

最優先課題

水利救護長 工藤健治



近年、就業構造の変化等に伴い、消防団員は減少傾向にあります。消防団では団員の減少に歯止めをかけるために、検討委員会を開催し、定年延長・機能別団員・女性消防団員等様々な角度から人員確保について検討を重ねていくところであります。災害時の動員力や即時対応力に支障をきたさない為にも、村民の安心・安全の確保の先頭に立つて活動している、青木村消防団の将来の為にも、消防団員の確保に真摯に取り組んでいかなければならないと思えます。

